

高度医療機器等の紹介



■外科用X線レビ装置

- ・台車を動かすことなく、アームの部分がスムーズに前後左右に直線的にスライドすることで位置決めが行え、操作が従来の装置より簡単になった。
- ・また、今まで見にくかった部位（腰を横から撮影するときなど）もよりきれいに撮影することが可能になった。



■一般撮影装置

- ・従来より短時間の撮影が可能になり、患者の動きによる画像のブレが低減する。
- ・また、インバータ方式を導入しており、患者の被爆線量も低減され、安全な医療提供が図れる。
- ・電動で昇降する臥位撮影台が設置され今まで撮影ベッドが電動で昇降するので、負担がなくなった。



■陰圧式エアーテント

- ・空調コントロールシステムにより、陰圧陽圧換気を行え、HEPAフィルター、活性炭フィルター、紫外線殺菌にて空気洗浄され、完全な環境を構築できる。
- ・また、1時間に12回以上の換気が行え、2次汚染等を低減できる。
- ・二重天幕のため、室内の密閉度が高く、断熱効果も高い。
- ・また、冷暖房装置が取り付けてあるため、快適な住環境を保つことができる。

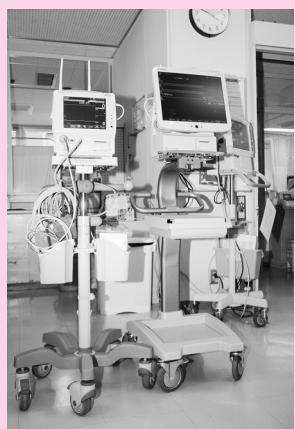


■人工呼吸器

- ・操作兼モニターは12型のカラー液晶で、タッチパネル方式であり、操作が行いやすい。
- ・4種類以上の波形及びループ波形を表示できる。
- ・小児から成人の患者に使用可能な換気モード機能を有している。
- ・停電時は30分以上のバッテリー操作が可能である。

■患者監視装置

- ・重症患者の心電図、呼吸曲線、脈波形、心拍数、呼吸引数、血圧値、脈拍数などの生体情報をナースステーションから常時確認できる。
- ・また、最大16床分までの監視増床が可能になった。



薩摩郡医師会の

海江田会長に聞きました



薩摩郡医師会 会長 海江田 康光さん

Q 地域医療の現状について

当地域は代表的な医療過疎地域になっていますが、病院スタッフや行政の協力、そして川内市医師会との連携がうまくいっており、町民の方々が困らない程度の医療は提供できると思います。しかしながら油断は禁物で、人的にも今がギリギリの状態だと思っていま

す。

性期の患者に対応する「医師不足」と捉えた方が良いと思います。急性期の患者の場合、高度な医療機器を用いて診察することが要求されますが、そういう機器を使いこなす「医師不足」が今後、益々深刻化すると思われます。

Q 全国的な医師不足について

医師不足の意味については様々捉え方がありますが、開業医の先生方はいらっしゃいますが、急

Q 今回の高度医療機器等の貸与について

今回の貸与は非常にありがたいことです。

Q 当地域での急性期医療を守るために要望などはありますか？

今後も機器等の支援もですが、医師不足に対する直接的な支援な

Q 医師不足の解消について

非常に難しいことだと思います。2004年の新研修医制度の施行により、これまで医大などの卒業生が大学で研修することが主でしたが、一般の病院でも研修が可能になりました。そうなると、待遇面を含めて、都市部への流出が加速しました。

今後は、都市部に居る郷土出身の医師の方々に声をかけ、帰郷を促すなどして、少しでも解消の糸口を探りたいと思います。

Q 町民の方々へのお願いはありますか？

今はとかく、大病院志向が強いと思います。大病院と開業医の先生方とは役割はそれぞれ違いますが、医師としての力量の差は無いと思います。

まずは、地元の「かかりつけ医」に相談していただき、適切なアドバイスを受けていただきたいと思います。

また、今流行中の「新型インフルエンザ」について、去る10月15日には、発生を想定した訓練も行いましたが、万が一、当地域に流行の兆しがみえたら、医療機関、行政、町民の方々が一体となって蔓延を防ぐなど、お互いが一致団結した協力体制を心掛けてください」と思います。

ど講じていただければありがたいと思います。

薩摩郡医師会病院は、準公的病院だと思っています。他市町の公的病院は赤字を公費で賄えますが、当病院の場合は自力で運営している状況です。行政からの今後、更なる支援を期待したいと思います。